

# 平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 井 堀 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※全ての実施教科で、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問うようにしています。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

### 3. 教科に関する調査結果の概要

#### (1) 全国・本市の学力調査(国語, 算数)の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.1	65	9.0	64
全国	8.9	64	9.3	67

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5つのうち4つの領域で、全国平均正答率を上回っている。特に読むこと・書くことの領域では、全国平均正答率を大きく上回っている。</li> <li>・記述式の問題において、全国平均を大きく上回っており、自分の考えを適切に説明することができている。</li> <li>・ひらがなを漢字に書きなおす問題で、誤答や無回答が多く、課題が見られる。</li> </ul>
	よってきた問題	「情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫をとらえる」問題や「文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く」問題では、全国平均正答率を大きく上回った。
	努力が必要な問題	「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」問題で、全国平均正答率を下回った。無回答率が高い問題があった。
算数	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「数学的思考方」「技能」「知識・理解」のどの領域でも、全国平均正答率と同程度である。</li> <li>・記述式の問題について、正答率が高く、論理的に解答することができている。</li> <li>・基本的な計算問題にミスが多い。</li> </ul>
	よってきた問題	「示された計算の仕方を解釈し、かけ算に関して成り立つ性質を記述で説明する」問題や「目的に適した伴って変わる二つの数量を見いだす」問題で、全国平均正答率を大きく上回った。
	努力が必要な問題	「かけ算、足し算の混合した整数と小数の計算」「繰り下がりの引き算をする際の正しい考え方を選択する問題」でミスが多い。全国的に正答率の高い基礎的な計算問題でミスが目立った。

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語の勉強を「好きである」と回答した割合が、全国平均を大きく上回っている。また国語の授業について「自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝えるように理由を示したりするなど、話や文章の組み立てを工夫している」や「学習したことを普段の生活の中で活用しようとしている」に肯定的に回答した割合も高く、主体的に授業に参加していることがわかる。</li> <li>・総合的な学習の時間などで、自分で課題を立てて情報を集め整理して調べたことを発表する学習活動において、コンピュータなどのICTを積極的に活用することができている。</li> <li>・「道徳の授業では、自分の考えを深めたり学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」に肯定的に回答した割合が高い。</li> <li>・「新聞を読んでいますか」について肯定的な回答をした割合が、全国平均と比べて大きく下回っている。現在はNIEの取組の一貫として、校内に新聞コーナーを設けたり、学習に関連する話題を掲示したりすることで、多くの児童が新聞を読むようになってきている。</li> <li>・「自分にはよいところがある」や「将来の夢や目標を持っている」について肯定的に回答した割合が、全国平均と比べてやや低い。</li> <li>・家庭での学習では「30分より少ない」と回答した割合が高く、現状では宿題以外の学習について取り組むことができていない児童が多い。</li> </ul>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的・対話的で深い学びの学習になるよう学校全体で授業研修を行い、授業改善に努めていく。</li> <li>・学力体力向上推進教員のモデル授業参観や指導助言から、さらに主体的・対話的で深い学びとなるように全校で日々の授業改善の取組を進める。</li> <li>・学習の基礎基本的な内容をより一層定着させるために、全校で朝の学習の時間(8:40~8:50)に集中して基礎基本定着問題に取り組んでいる。3~6年生は、学力定着サポートシステムを活用し、短時間で集中して問題に取り組むようにしている。これにより児童一人一人の苦手な課題を解決していく。</li> <li>・担任外の教員が中心となって、学期末にドリルが終わっていない児童に対して放課後指導をしたり、ひまわり学習塾に指導員とともに指導にかかわったりして、補充学習を充実させていく。</li> <li>・校内に新聞コーナーを設けたり、学習に関連する話題を掲示したりすることで、多くの児童が継続的に新聞に触れることが増えてきているので、今後とも継続して取り組んでいく。また、社会科や理科、総合的な学習の時間などでの調べ学習で新聞を活用したり、国内や地域のニュースにより興味関心を持ちたりするように時事ニュースを教室に掲示する。</li> <li>・学校行事や日々の学習活動の中で、自分のよさや自己有用感を感じることができるよう、褒めたり認めたりする学校・学級の雰囲気づくりに努める。「北九州子どもつながりプログラム(北九州市対人スキルアッププログラム)」を全学級で活用し、自分のよいところを実感させる。また将来の夢や目標を持つことができるように、体験的な活動を積極的に取り入れる。</li> </ul>
--

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校だより、学年学級通信、保健だより等を通して、基本的な生活習慣の定着についての啓発をより一層進めていく。</li> <li>・板櫃中学校区の「十人十色～一人一人を大切に～」というスローガンのもと、「全校あいさつ運動」や「ほかほかレター(いいところ見つけ)」の掲示を、今後とも継続して行なっていく。</li> <li>・家庭学習の時間は「学年×10分+10分」を目標とする。学習時間を増やすだけでなく、個人の課題克服に向けた内容にするために、学級や学年で手本となる家庭学習の仕方を掲示する。また、家庭学習の習慣の定着については、保護者会や通信等の機会に継続的に保護者に呼び掛けていく。</li> </ul>
---